



Software Reliability  
Enhancement  
Center

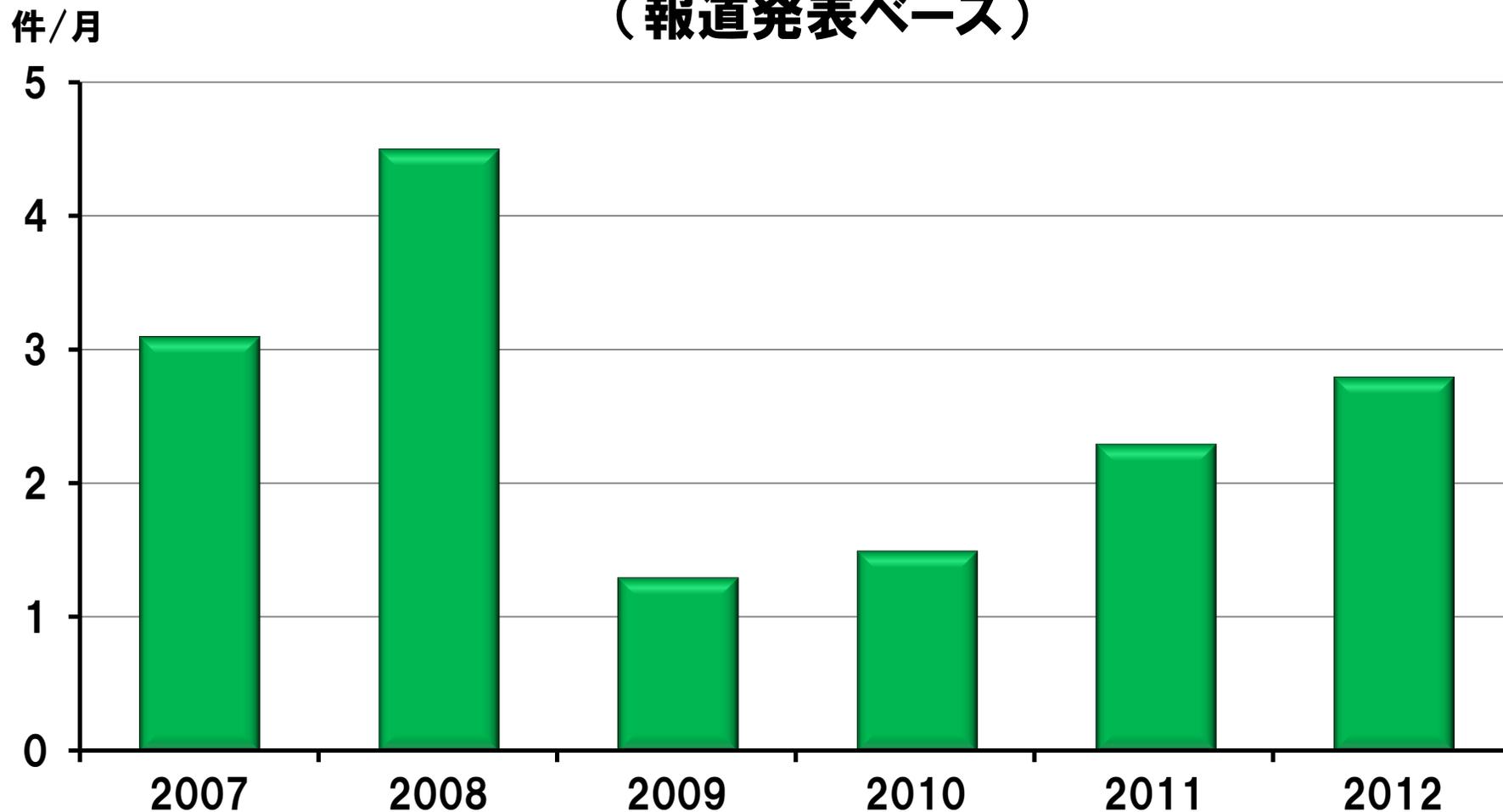
Information-technology Promotion Agency, Japan

# 安心・安全な社会を支える ソフトウェアシステムの構築へ

2014年2月21日

独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)  
技術本部 ソフトウェア高信頼化センター(SEC)  
所長 松本隆明

## 社会経済活動に多大な影響を及ぼした情報システムの障害 (報道発表ベース)



IPA/SECの調査による

- 製品・装置の故障も、内蔵されている**ソフトウェアが原因**であるケースが多い
- システム系の障害では、**類似の原因**に起因するケースが多い

# 自動改札機の不具合による大規模障害



2007.10.12

- JR東日本、地下鉄、私鉄の662駅で自動改札機が使えなくなる
- 原因は、ネガデータを中央のコンピュータから受け取る際、**改札機のソフトウェアに不具合があり正しく読み込めず**

2007.10.18

- 地下鉄等の65駅で窓口処理機が使えなくなる
- **原因は10/12のトラブルと同一**。改札機と窓口機で不具合の発生条件が異なった



約260万人の利用者に影響



NATIONAL HIGHWAY TRAFFIC  
SAFETY ADMINISTRATION

DRIVING SAFETY

VEHICLE SAFETY

RESEARCH

DATA

LAWS & REGULATIONS

ABOUT NHTSA

Enter Email Address

SUBSCRIBE

Sign up for Email Updates

SEARCH

Home

About the  
Administrator →

Calendar →

Congressional  
Testimony →

Jobs at NHTSA →

Pre

Sp

Pre

Pro

Tra

Print Share RSS Feed Email

## U.S. Department of Transportation Releases Results from NHTSA-NASA Study of Unintended Acceleration in Toyota Vehicles

DOT 16-11

Tuesday, February 8, 2011

Contact: Olivia Alair

- 2009年～2010年日本製自動車の「意図しない急加速(UA)」に関するクレームが急増
- 米国議会や米運輸省道路交通安全局(NHTSA)から品質報告を求められるもメーカー側は説明に苦慮
- NHTSAは第三者機関であるNASAに不具合の有無の調査を要請 → 結果はシロ

電子スロットル  
制御システムの  
ソフトウェアが  
疑われた



...egrity to conduct new research into whether  
...a role in incidents of unintended acceleration.

vehicles capable of producing the large throttle openings required to create dangerous  
...mechanical safety defects identified by NHTSA more than a year ago - "sticking"  
...erator pedals to become trapped by floor mats - remain the only known causes for  
...nts. Toyota has recalled nearly 8 million vehicles in the United States for these two

出典: <http://www.nhtsa.gov/PR/DOT-16-11>

# ハードウェア開発とソフトウェア開発

要件定義

設計

製造

ハードウェア開発

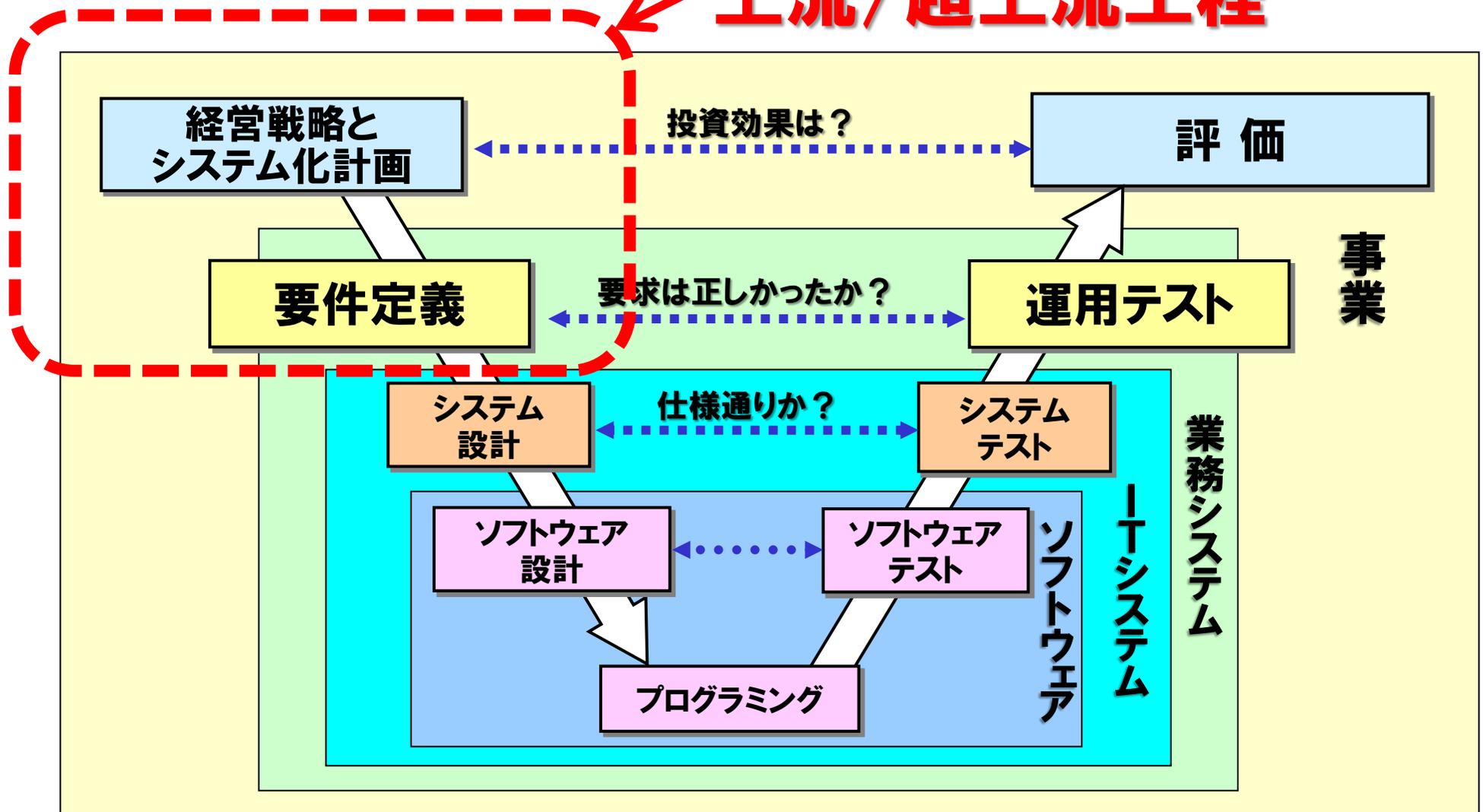


ソフトウェア開発



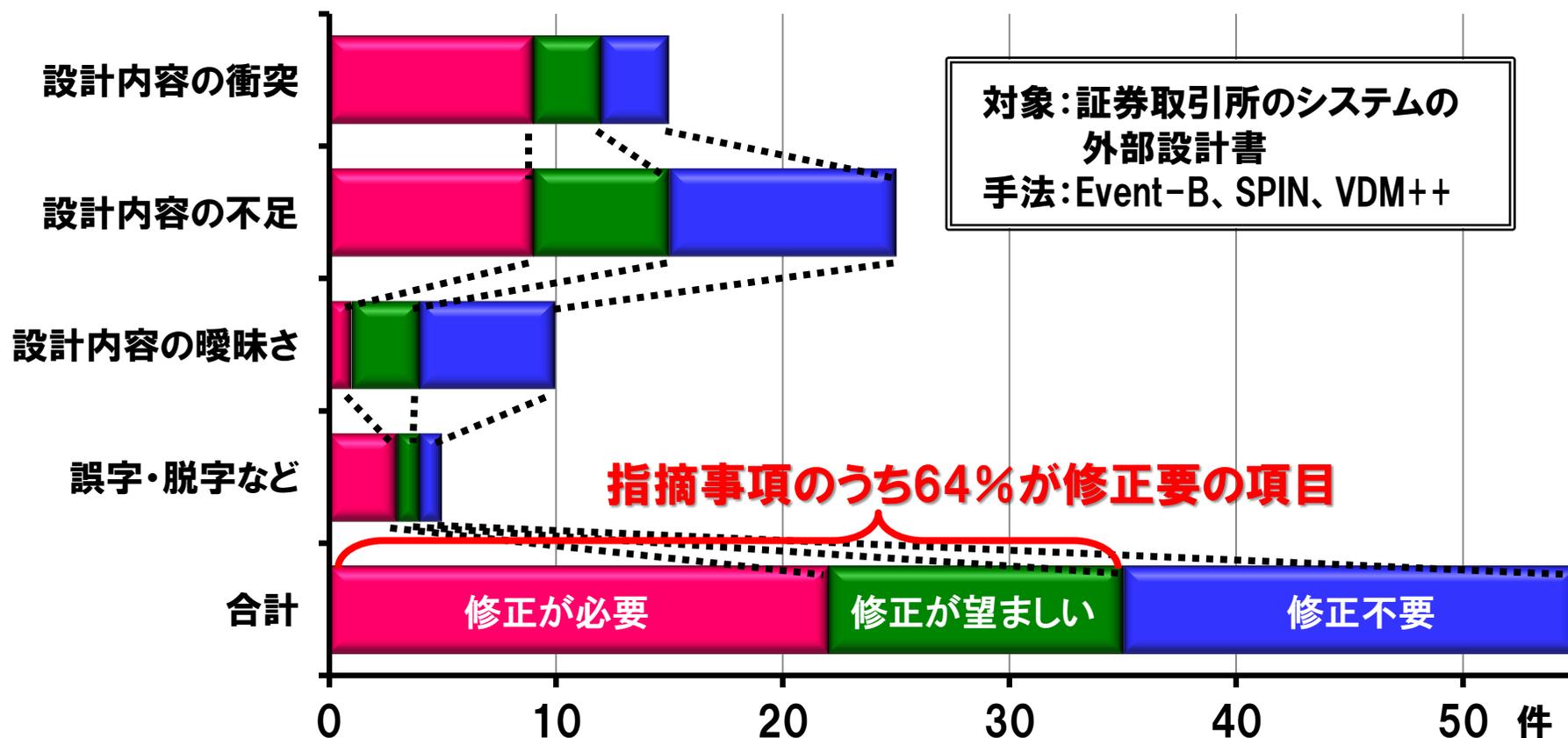
# ソフトウェア開発は上流工程がカギ

## 上流/超上流工程

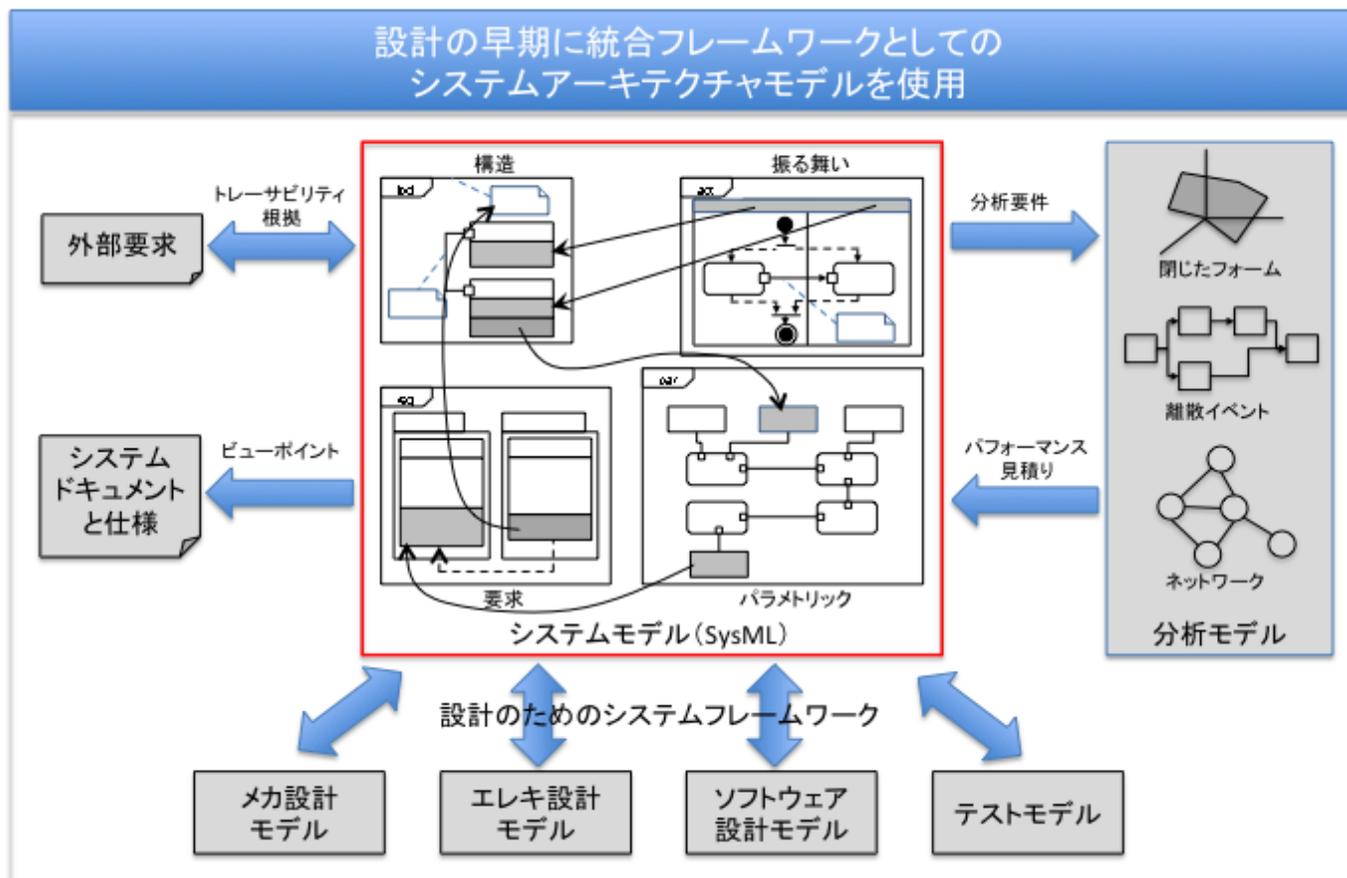


- 形式手法とは、数学的な規範を用いることで、設計の曖昧性や不正確さを排除する手法の総称

## 実システムへの適用実験例

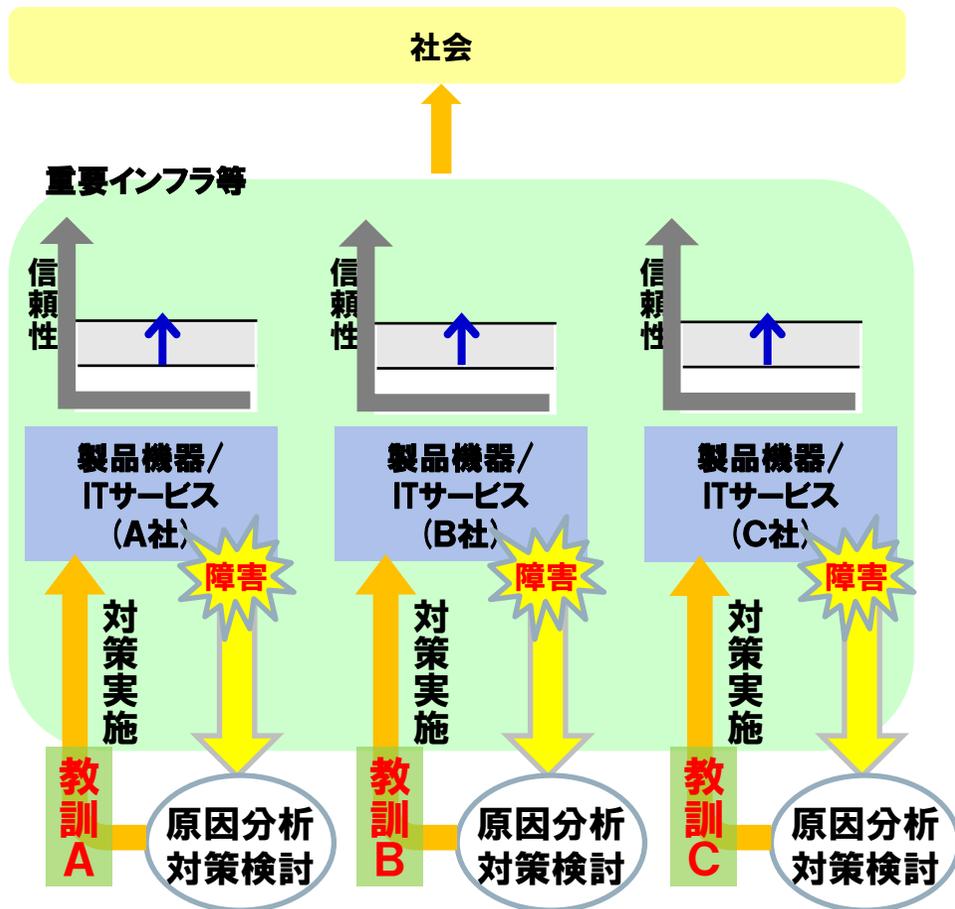


- 対象のモデルを適切に構成要素に分割(decompose)できるため、QCDSE (品質、コスト、納期、安全性、環境)などのバランスをとることができる

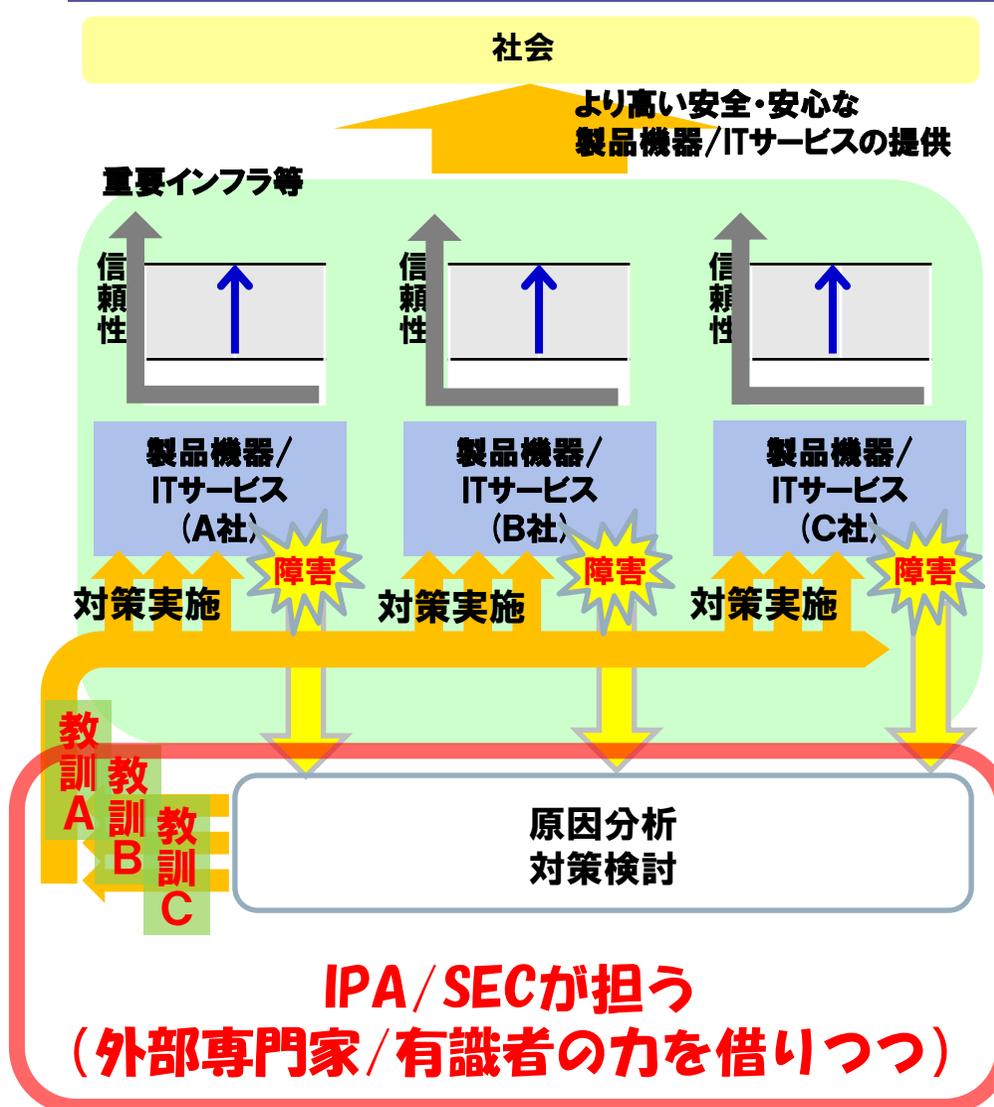


# 類似障害の再発防止の仕組み作り

現状(教訓の共有なし)



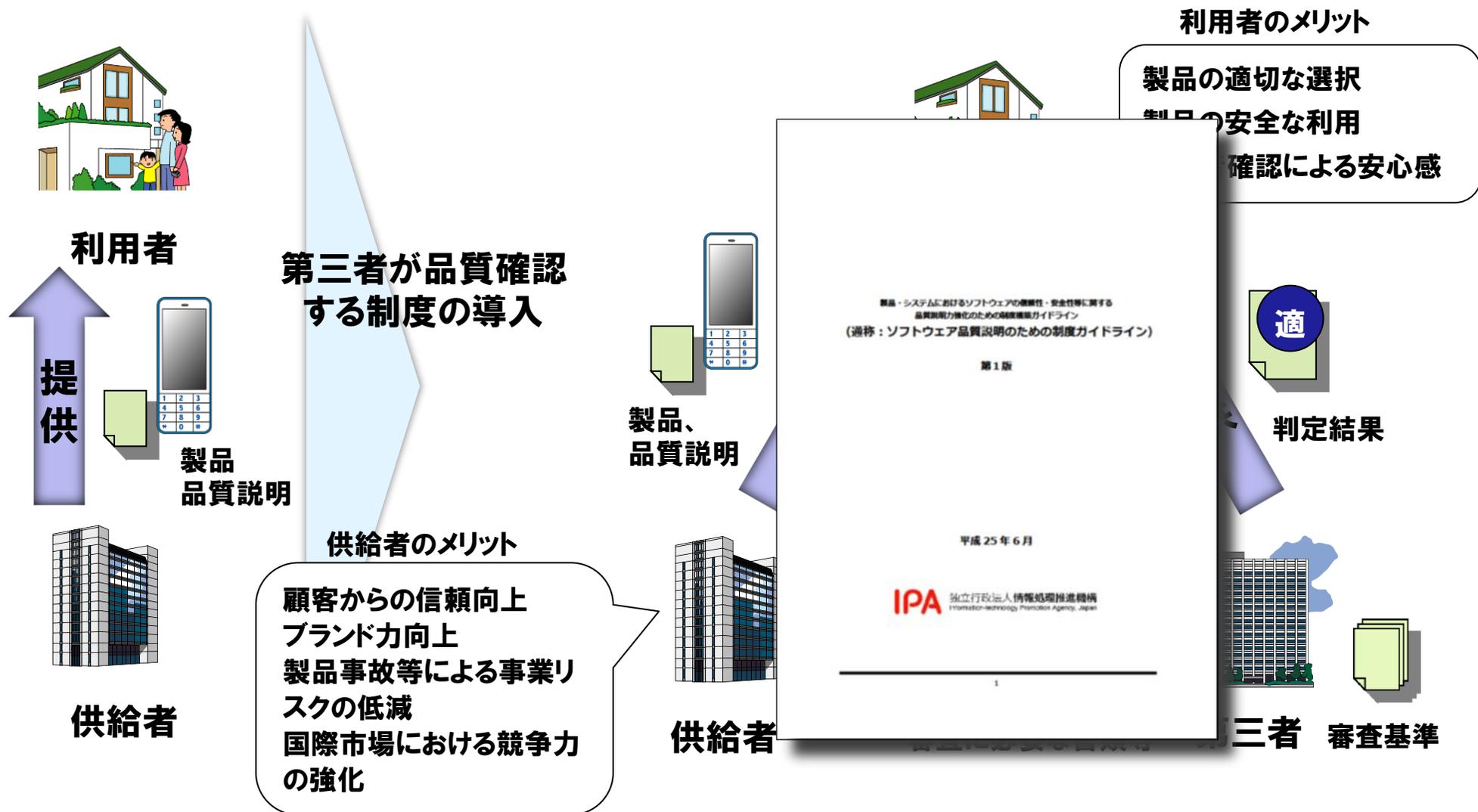
障害に基づく教訓の共有による信頼性向上のしくみ

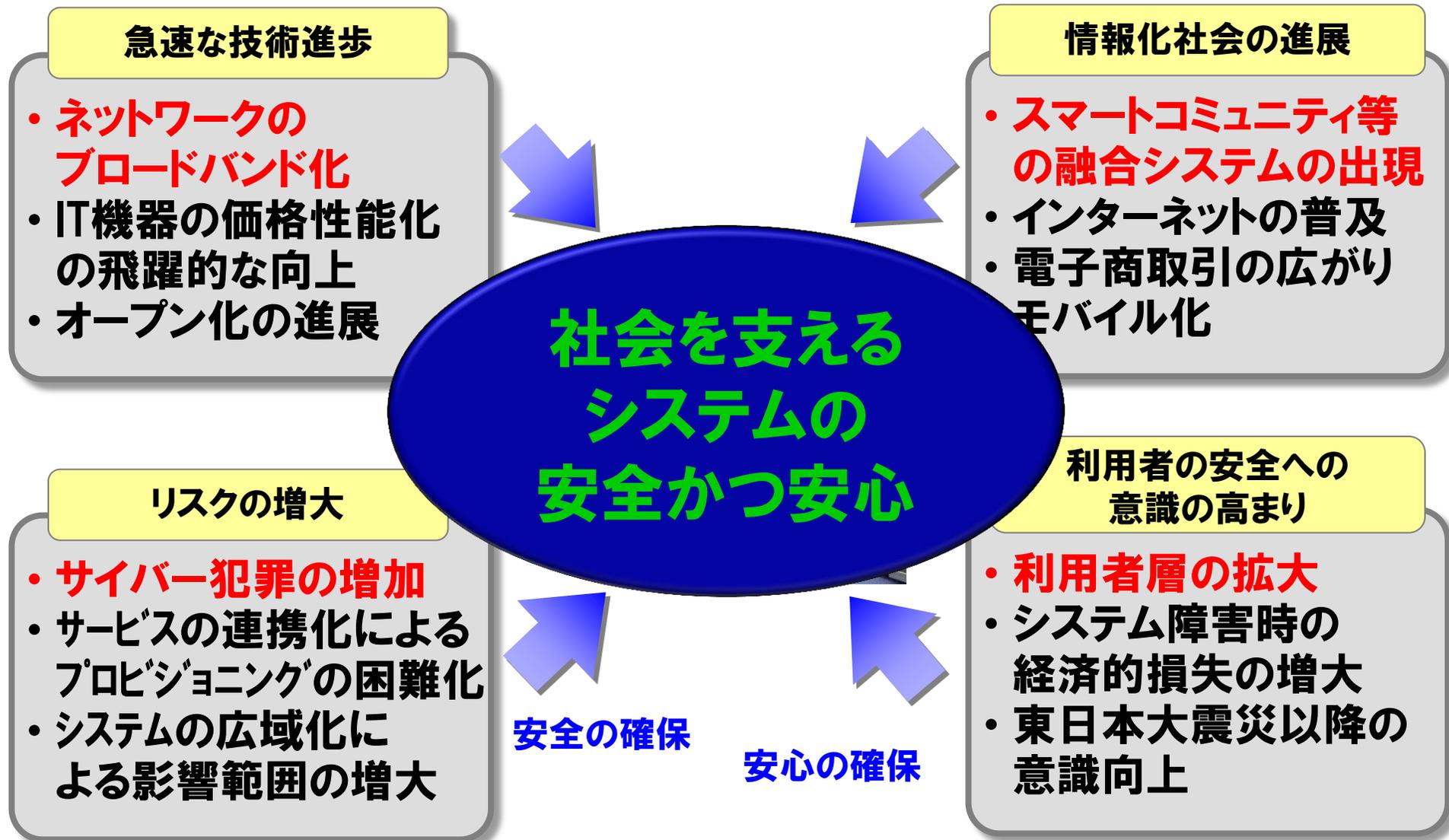


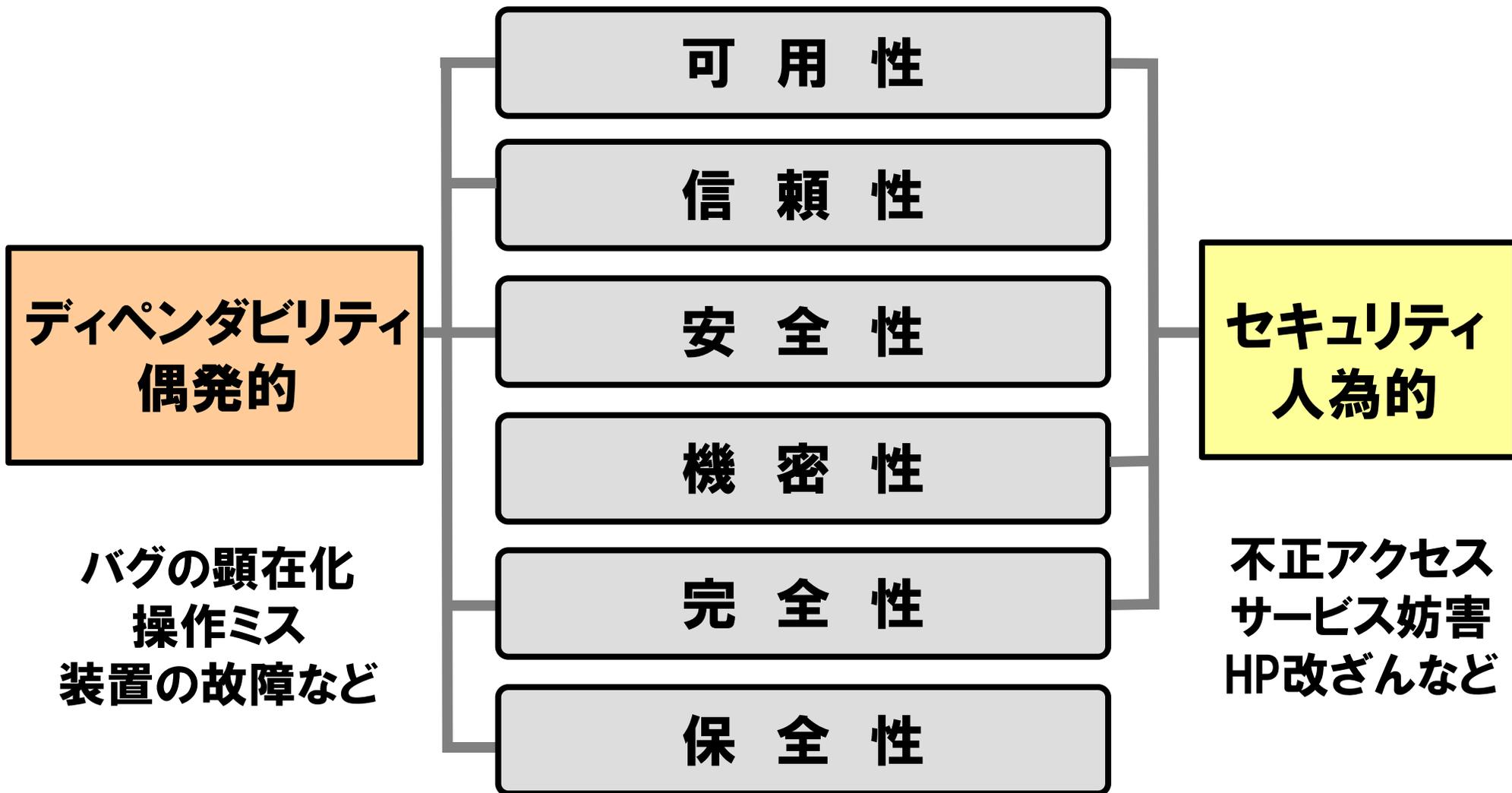
- これまでの日本企業は、利用者の要望に個々に答えることで高品質というブランド力を築いてきた
- 実際、日本製のソフトウェアの品質は海外に比べて1桁以上高いとの調査結果も出ている
- しかしながら、この事例は企業の本質的な品質管理の主張だけでは、消費者の懸念を払拭できず、客観的な評価が重要である
- 会計処理における透明性と同等
- 一旦ブランドが傷つくと、その回復は極めて大きい
- 今回のケースでは直接的な不具合は検出されなかったためUAに対する損害賠償請求にはメーカーが勝訴したが、ブランドイメージの低下により車両の価値が下がったとして顧客から訴えられ、11億ドル(当時のレートで約940億円)支払うことで和解

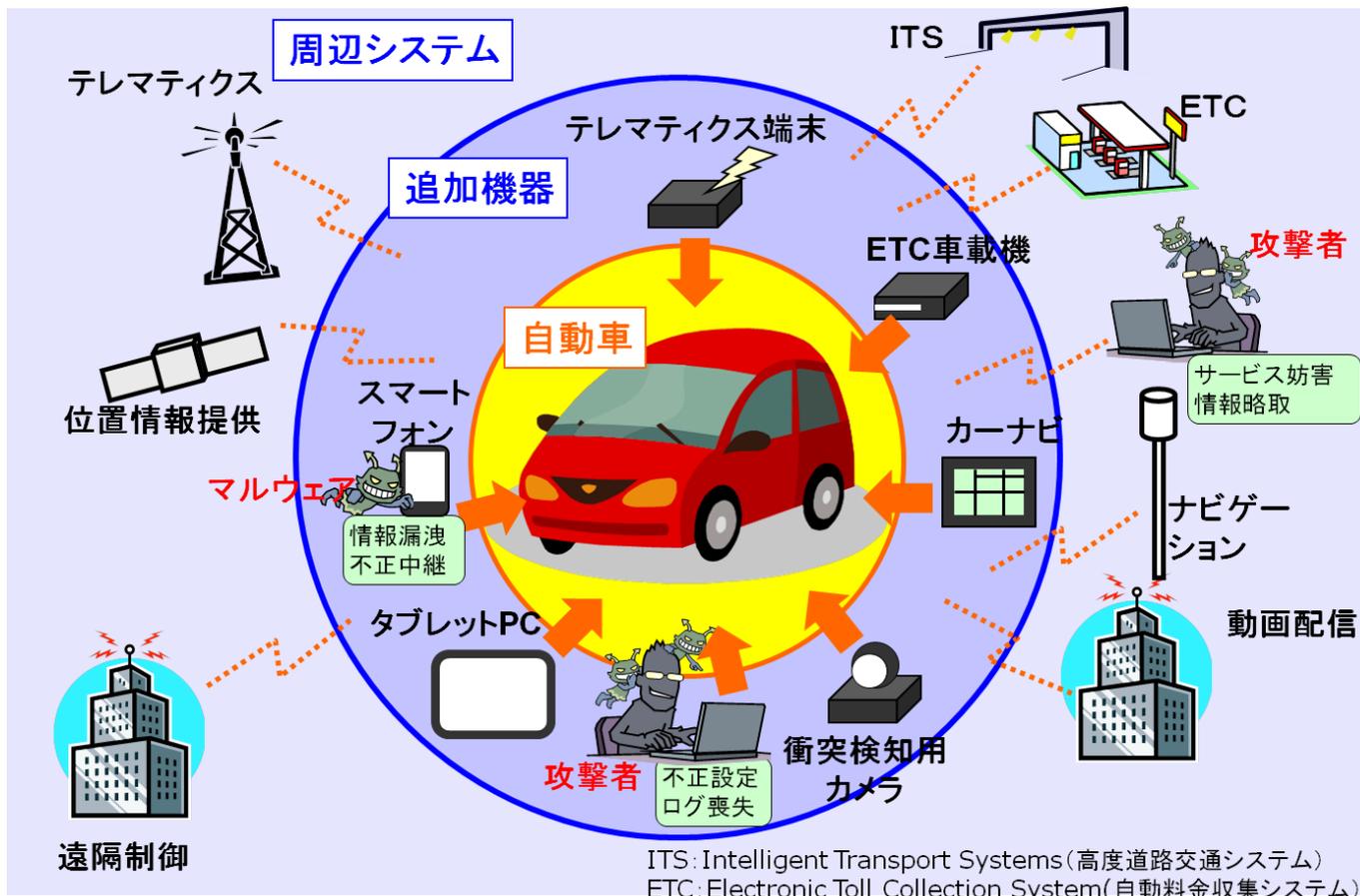
Trust Meでは  
通用しない!!

# 第三者が品質を確認する仕組みの導入









自動車が様々な機器やサービスに繋がることで、様々な場所に攻撃者が現れる可能性がある。

➡ 「セキュリティ」への対策が必要

## ■ 自動車は、特に**安全性と可用性を同時に満たす必要**がある。

- 安全でなければならないが、高速道路や砂漠での走行等を考えると、何かあった時に安全のため停止してしまうだけではなく、必要とされる時には可能な限り継続して走り続けられる**可用性**等も必要。



自動車のようなコンシューマデバイスは  
「**ディペンダビリティ**」を保証することが必要

## IPAが中心となって、産官学連携により枠組みを策定

